

迎春



「未来へ続く安定した道筋」

稲美町長

古谷博

新年あけましておめでとうございます。

皆様におかれましては、ご家族お揃いで健やかに平成30年の新春をお迎えのこととお喜び申し上げます。さて、昨年を振り返ってみますと、7月の九州北部豪雨に始まり、9月、10月には大型で強い台風が立て続けに日本列島を縦断するなど、多くの自然災害が各地に甚大な被害をもたらしました。一方で稲美町ではうれしい話題もありました。女子サッカーのINAC神戸レオネッサで活躍されておられます武仲麗依さんと、7月に開催された聴覚障害者の国際スポーツ大会「デフリンピック」の女子バレーボール競技で金メダルに輝かれた畠奈々子さんの2名に3年ぶりの町民さわやか賞を贈呈させていただきました。そして、主な町政の取り組みとしては、4月に防災行政無線の運用を開始し、災害に強い安全・安心なまちづくりに更に歩みを進めました。7月にはふれあい収集をスタートさせ、8月に高齢者バス・タクシー券の対象者を拡充するなど高齢者の皆様がいつまでも安心して暮らし続けることができるための環境整備を進めてまいりました。

今年、稲美町の未来を担う子ども達の成長を力強く支援してまいります。4月から、子育て支援施策を包括的に進めるために、健康福祉部内に新組織を設置するとともに、新たに建設を予定しております子育て支援拠点施設につきましては、現在、施設整備基本計画の策定と建設候補地の確定を進めており、平成30年度に建物の基本設計を実施してまいります。加えて、母里幼稚園と天満南幼稚園で3歳児教育を開始いたします。

今後も、これまで取り組んできたまちづくりを更に発展・充実させ、全ての世代の皆様が夢と希望をもって安心して暮らし続けることができる地域社会の実現と住民の皆様がふるさとの魅力を感じ、愛着を持ち、「住んでよかった」と実感できる稲美町がはるか未来まで続くよう、安定した道筋を全力でつくってまいりますので、本年もどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

最後になりましたが、住民の皆様にとりまして、健康で明るく幸せな一年となりますよう心からお祈り申し上げます。新年のごあいさついたします。



「住民の皆様と共に」

稲美町議会議長

山口幸

あけましておめでとうございます。皆様にはご家族お揃いで新しい年をお迎えのことと、心よりお喜び申し上げます。旧年中は稲美町議会議に温かいご理解とご支援を賜りましたこと、議事を代表しまして厚くお礼申し上げます。

昨年は、九州北部をはじめ全国各地の風水害、凶悪な犯罪など、心配な出来事がありました。関係者の方々には心よりお見舞い申し上げます。その一方で、秋篠宮眞子さまと小室圭さんの婚約内定のお知らせは、国民に明るい話題を提供しました。また、スポーツや将棋などの分野で10代の人たちの活躍が光りました。若者たちの健やかな成長は、未来への大きな希望となります。温かく見守り、応援してまいりたいと思います。

さて、稲美町議会では、昨年の9月議会において議員の定数を16人から14人に改正する条例を可決し、次回の一般選挙から実施されることになりました。定数を削減することにより、住民の声が届きにくくなり、行政の監視機能の低下につながるなどの意見が出されましたが、社会情勢と皆様から頂いた意見をもとに議論を重ねて結論にいたりました。このような議論を通じて、住民の皆様との意見交換の場の重要性を改めて認識しました。

また、「開かれた議会」を目指し、昨年12月から議会映像のインターネット配信を開始しました。インターネットを利用して、パソコンやスマートフォンなどで議会開催日の生中継と後日の録画放送を視聴できるようにいたしましたので、是非、ご覧ください。

稲美町総合計画後期基本計画の策定が進んでいます。議会としても住みよいまちづくりを実現するため、議会の果たすべき役割と責任を自覚し、皆様の声を町政に反映し、10年後さらにその先も稲美町が発展を続け、住んでよかったと実感できるまちづくりに議員一同全力で取り組んでいく所存でございます。

これからも住民の皆様と共に歩む議会を目指してまいりますので、皆様の一層のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

最後に、皆様方のご健勝、ご多幸をご祈念申し上げます。新年のごあいさついたします。

